

# 幡多地域のコア・リーダー養成会に参加。新たなネットワークも!!

【省庁連携CONE コア・リーダー養成会 高知研究会】

さまざまな主体が連携した自然体験活動を推進するコア・リーダーの養成会が、平成21年12月17日から3日間の日程で行われました(於:土佐清水市)。NPO法人自然体験活動推進協議会(CONE)と、四万十楽舎や海癒など幡多地域で自然体験活動を実践しているメンバーによって企画運営されたこの養成会は、「からを超えて」というテーマで開催されました。「自然」をキーワードに、福祉、芸術、第一次産業、食文化など、さまざまな分野で取り組む団体が参加し、文字どおり活動分野や行政・民間といった枠組み(殻)を超えた会となりました。

四万十川自然再生協議会が参加した初日には行政施策の勉強会が行われ、文部科学省、国土交通省、農林水産省、林野庁の自然体験活動に係る施策や事例等が紹介されました。再生協については、国土交通省の報告の中で紹介され、「河川敷に自生する菜の花で地域活性化を図りたい」「河原への車の乗り入れを制限し、アユの産卵場を守ろう」といった地元住民や漁業者の意見が、自然再生事業に活かされていることなどが説明されました。このほか各省庁から、近年、修学旅行等で長期自然体験へのニーズが高まっていることが紹介され、「今こそ幡多地域でグリーンツーリズムを推進するチャンス!」と、エールも送られました。

会の終了後には、シシ肉やツガニ、コンニャク、シイタケ、清水さばなど、幡多地域の山海の恵みをふんだんに使った料理を

囲んでの交流会が行われました。参加者全員でのざっくばらんな意見交換の中から、再生協と竜串自然再生協議会(土佐清水市)のコラボレーションの企画など、新たなネットワークも生まれました。

## 行政施策の勉強会



県内外のボランティア関係者が多数参加!

## 自己紹介ゲーム



日頃の活動内容だけでなく、お国自慢や趣味なども語り合い、交流を深めました

## 交流会



地産地消の料理の数々に食も進み、話も盛り上がります



自然体験の指導に携わった農林業を行う青年が育てたシイタケ



音楽で地域を元気にする活動を行っている方のミニライブ

**四万十川**  
Shimanto River Album  
**アルバム**  
あの日、あの時、残したい四万十の風景

四万十川の鮎の気配に解く  
漁夫の眼光を貫く  
霧を貫く  
四万十太郎

(落ち鮎漁・解禁の四万十川にて)

皆さんがお持ちの四万十川の自然や流域での出来事を写した写真を、このコーナーで紹介してみませんか?  
※写真送付先:事務局(担当:田村)

四万十川自然再生協議会通信に関するお問合せ

四万十川自然再生協議会事務局  
国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所 工務第一課

高知県四万十市右山2033-14  
tel: 0880-34-7304 fax: 0880-34-1395 e-mail: nakama40@skr.mlit.go.jp

# 四万十川自然再生協議会通信

9号

発行日●平成22年2月16日  
発行●四万十川自然再生協議会(略称:再生協)  
四万十川自然再生協議会ホームページ  
<http://shimanto-saisei.com/>

## 新春たこあげ大会 開催!

～平成22年1月10日 於:鍋島河川敷～

四万十川自然再生協議会では、自然に関係するイベントにとどまらず、さまざまな地域活性化の取り組みに協力しています。毎年1月には、青少年健全育成四万十市民会議、高知県青少年対策推進幡多支部とともに、「新春たこあげ大会」を開催しています。この「たこあげ大会」は、昔から伝えられ親しまれてきた「和だこ」を通して、友達とのふれあいや親子の語らいを深め、また自然に親しむ心を養い、明るく健やかな青少年を育てることを目的としたものです。

今年はお天気にも恵まれ、たくさんのお手づくりのたこが四万十川上空を飛び交いました。そのメインとなるのは、年末に行われた「たこ作り教室」で親子が協力して作り上げた「和だこ」です。今年の干支のトラやアニメのキャラクターなどを描いた色とりどりの力作の数々が、訪れた人々の目を楽ませました。

大会終了後には、「たこあげキング」「たこあげクイーン」など、8つの賞の表彰式が行われ、河川敷には終始子どもたちの歓声が響き渡っていました。



再生協自慢の大だこ  
絶好のたこあげ日和。毎年恒例の大だこも無事あがりました



小さな子どもも上手にたこを操っていました



たこのプレゼントや豚汁のサービスなどもあり、にぎわう会場

## 12月26日「たこ作り教室」

市内の子どもたちが  
伝統的な「土佐だこ」作りにチャレンジ!



竹ひごを組む作業が難関!

和紙いっぱい元気よくトラを描く子ども

## たこあげと自然再生とのかかわり 西尾会長インタビュー

四万十市の冬の風物詩「新春たこあげ大会」では、手づくりの「土佐だこ(和だこ)」という点にこだわっています。「土佐だこ」は郷土のたこで、簡単に作れて、よくあがるのが特徴です。たこを作れば、素材となる伐竹材や木材等のリサイクルにつながります。そのたこを、子どもたちが身近な四万十川の河原であげることで、川への愛着心を深めてもらおうという意図も、「たこあげ大会」にはあるんですよ。なかなか奥が深いでしょう(笑)。

大会審査講評を述べる西尾会長  
〔たこあげ大会〕は、会長のお気に入りイベント!)

